

学校 教育 目標	「自分大すぎ 友だち大すぎ このまち大すぎ さくらの子」				
	○困難なことにもあきらめずに挑戦する子どもを育てます。(知) ○物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子どもを育てます。(徳) ○自分や人の命を大切にできる子どもを育てます。(体) ○小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子どもを育てます。(公) ○様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。(開)				
学校 概要	創立 11 周年	学校長 池田 千晶	副校長 丹野 悦子	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 387 人	主な関係校: 下瀬谷中学校 南瀬谷中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <言語能力>	下瀬谷中学校 瀬谷第二小学 校 瀬谷さくら小学 校	主体的に地域とともに学ぶ子ども (具体的取組み) ①地域防災拠点小中合同防災訓練 ②小中合同授業研究会 ③小中交流での合唱披露、職業体験、出張授業、部活体験、授業参観、基礎学習会

中期 取組 目標	○児童が自信をもって主体的に行動し、安心して生活できる学校を目指します。 ・楽しくてわかりやすい授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。 ・一人一人が自己有用感をもち、楽しく学校生活を送れるよう、環境調整に努めます。 ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成を推進します。 ・他者を思いやり、協力することの喜びを感じられる心を育てます。 ・まちの方々とのふれあいを通して、まちを愛する心を育てます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①漢字検定・計算検定について、検定の問題のレベルを見直したり、表彰を行ったりして、より意欲的に高い目標をもって取り組もうとする姿勢を育てる。②重点研では、引き続き、本校の児童の読む意欲と読む力を高めるための支援の在り方を追究し、基礎・基本の充実を図っていく。
担当 C部会・重点推進委	
豊かな心	①挨拶やふわふわ言葉の励行・礼儀正しい言葉遣いを引き続き年間を通して意識する。学習・算数サポートや地域の方との交流で、顔と名前が分かる関係を続けていく。②異学年交流を充実させ、かわりを広げるとともに発達年齢に応じたコミュニケーション力の育成に取り組む。
担当 B部会	
健やかな体	①体力テストの結果をふまえ、「なわとび」に取り組む。短期に集中した取組を複数回繰り返すことで、児童が継続して楽しみながら体力を向上できるようにしていく。②特別クラブの活動を通して、自らの体力向上や生活習慣の改善に進んで取り組む態度を引き続き育てていく。
担当 体育部	
児童生徒指導	①不登校児童や虐待が疑われる児童について、部会や児童支援専任を中心に、他機関との連携を図り全職員で見守る。問題の芽を早期発見し、問題解決に向けて全職員で迅速に対応する。職員会議等での児童理解、児童指導の情報共有を行う。②必要に応じスタンダードの見直しを行う。
担当 B部会	
特別支援教育	①全ての児童にわかりやすい支援をするための重点項目として、環境・見通し・視覚化を推進していく。クラス内での個別支援や「さくらタイム」等の合理的な配慮を進めていく。②保護者や関係機関と連携をして実態把握を行い、個別の支援計画に生かしていく。
担当 B部会	
地域連携・ 学校運営協議会	①学校運営協議会を通して、地域や保護者の方々が参加しやすく、やりがいのある学習サポートの体制を見直す。児童一人一人の実態に応じたサポート体制を目指し、見直しと改善を図っていく。②登下校の見守り等、児童の安全を守るための体制を築いていく。
担当 教務部	
a14	b7
担当	
a15	b8
担当	
いじめへの対応	①引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かな情報を見逃さない姿勢で取り組む。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①7年次以下の教職員のメンターチームでは、課題意識をもって学級経営について学び、日々の実践に役立てる。②主幹教諭が中心となり、3部会を通して校務を適切に分担し、学校の運営を円滑に進められるようにする。③職員の声を大切にし、業務の見直しと改善を図り続ける。
担当 教務部・メンターチーム	